

【ポスター発表】

## EPA ベトナム人介護福祉士候補者受け入れ施設における 候補者の日常業務分担とサポートの現状

○ 城西国際大学 林和歌子 (会員番号 005062)

キーワード：EPA ベトナム人介護福祉士候補者、受け入れ施設、日常業務サポート

### 1. 研究目的

本研究は、EPA（経済連携協定 Economic Partnership Agreement）ベトナム人介護福祉士候補者（以下ベトナム人候補者）の受け入れ施設で、ベトナム人候補者に対して行っている施設の日常業務に関するサポート状況を明らかにし、受け入れ施設の抱える課題を明らかにすることを目的としている。

EPAによる介護福祉士候補者の中では、基礎資格や一定の日本語能力が保証されているベトナム人候補者への期待は大きいものの、国家試験合格後に多くの候補者が数年以内にベトナムへの帰国を希望している。（天野 2018）長期就労に至らない理由として、先行研究では、比留間ら（2019）と藤野（2019）は国家試験合格後に帰国したベトナム人候補生への調査で、帰国の決断理由には家族の事情やEPAへの参加動機、身体的事情、転職先の出現などがあるものの、離職の背景には複雑な事情があることが指摘されている。また武中（2017）は外国人介護人材の資質向上の要素として、まず根底に業務を支える考え方として「生活の安定、円滑な対人関係、情緒面の安定」があり、そのうえで「日本語能力」、「介護技術」と「介護知識」が向上するのであり、生活や業務に関する物理的側面、人間関係や心理面に関する情緒的側面からのサポートの重要性を述べている。さらにルティゴックトアン（2020）が行ったインタビュー調査では、「言語」、「介護業務」、「国家試験」のほか、「利用者」と「候補者自身の考え方」が仕事を通して感じている困難に影響しており、その要素として「利用者からの苦情や文句」、「ベテラン職員に頼らなければいけない関係性」、「学んだ知識が活かされない」を挙げている。以上のことから、ベトナム人介護福祉士候補者に対し、物理的、情緒的側面のサポートに加え、利用者や職員との人間関係、看護師としての経験や技能など、業務内の対人関係の調整や個人の能力に配慮したサポートが求められていることがわかる。

そこで、本研究ではベトナム人候補者を受け入れている施設のOJTを担当する職員に対しインタビューを行い、候補者に行っているサポートの現状とその効果、また感じている難しさなどの実態を明らかにする。

### 2. 研究の視点および方法

本研究の視点は、ベトナム人候補者に対し行っている施設業務でのサポートへの着目である。先行研究を参考に、日常業務の利用者のケアに関するサポートとともに、業務の分担や役割に関するサポートに焦点をおいた。

### (1) 研究の対象

A 県内でベトナム人候補者を受け入れている障害者支援施設 1 施設、特別養護老人ホーム 1 施設で、ベトナム人候補者の OJT を担当する職員 4 名を対象とした。

### (2) 研究方法

一人約 1 時間の半構造化面接を行った。質問は先行研究を基にベトナム人候補者の介護業務サポートに関するインタビューを行った。分析は定性的コーディングを用いた。

## 3. 倫理的配慮

本研究は日本社会福祉学会の研究倫理指針を遵守するとともに、城西国際大学研究倫理委員会より承認（承認番号：15W200004）を得て実施した。調査の際には対象者にプライバシーの保護のための説明をおこない、研究結果の公表について同意を得た。

## 4. 研究結果

インタビューを分析した結果、ベトナム人候補者に対して施設が行っている業務に関するサポートは、通常の日本人の新人職員に対するサポートの「倍以上」の「時間」と「人手」をかけるなど「手厚い」支援を行っていることが明らかになった。そのなかで候補者によっては半年以内に夜勤業務をサポートなしで担当できるようになっているケースもあった。OJT 担当者は、施設で行っている候補者へのサポートにある程度の「手ごたえ」を感じている一方、言葉の問題から記録や情報共有などには課題を抱え、国家試験合格後も日本人職員のチェックを必要とするケースもあった。また多くの業務に関われるようになると、それと同時に利用者との個別の関わりも増えることから、一部の利用者から「言っていることが分からない」「怒る」「お互い苦手意識」といった軋轢関係が生まれていることも明らかになった。職員との人間関係については、先行研究と同様に施設全体で候補者が「居心地」のよい職場と思ってもらえるような仕掛けは積極的におこなわれているが、「候補者の個別事情」や「EPA への志望理由」などにより、その効果が期待よりは低いと感じていることも明らかになった。

## 5. 考察

研究結果をふまえ、施設がベトナム人候補者に対し行っている日常業務に対するサポートで感じている困難とその背景にある課題を考察した。ベトナム人候補者の長期就労や定着に向けた支援策への資料を示すことができた。

### 参考文献：

- 天野ゆかり (2018) 「外国人介護人材の定着の可能性と求められる役割 -ベトナム人看護学生に対するアンケート結果を踏まえて-」 宮崎里司・西郡仁朗・神村初美・野村愛編『外国人看護・介護人材とサステナビリティ-持続可能な移民社会と言語政策-』くろしお出版。
- 藤野達也 (2019) 「EPA 介護福祉士候補者受け入れの現状と課題—国家試験受験前の帰国理由からの分析—」『総合福祉学部・コミュニティ政策学部、淑徳大学研究紀要』、第 53 巻、pp. 153-163
- 比留間洋一、天野ゆかり (2019) 「なぜベトナム介護福祉士は EPA を離れたか？来日前の背景から」『地域ケアリング』第 21 巻、第 7 号、pp. 90-96
- 武中朋彦 (2017) 「外国人介護人材の受け入れについての課題と対策—自法人での外国人介護人材の受け入れ対策のあり方—」『商大ビジネスレビュー 兵庫県立大学大学院経営研究科』、第 7 巻第 3 号、pp. 105-138
- ルティゴックトアン (2020) 「EPA のベトナム人介護福祉士候補者の感じている困難性の分析-日本での生活と仕事への適応に基づいて-」『城西国際大学修士論文』